

## 第 29 回新潟周産母子研究会

日 時 平成 29 年 7 月 29 日 (土)  
午後 1 時 30 分～  
会 場 新潟大学医学部  
有壬記念館 2 階

### I. 一 般 演 題

#### ◎看護・メンタルヘルス

#### 1 皮膚保護剤による手荒れ予防対策効果の検証

貝沼 由紀・篠原紗也佳・渡辺ひとみ

新潟大学医歯学総合病院 西 5 階  
総合周産期母子医療センター NICU

NICU では頻回な手指衛生が必要である。今回、アルコールゲル擦式消毒剤と皮膚保護剤併用による手荒れ予防の有効性を証明することを目的に、NICU スタッフの勤務内における皮膚水分量の変化を調査した。その結果、アルコールゲル擦式消毒剤使用と共に皮膚保護剤を定期的に使用することは、手指の皮膚水分量の低下を防ぎ、手荒れ予防に有効ということが明らかになった。

#### 2 超低出生体重児の完全分離式ストーマの口側小腸瘻のパウチングおよび肛門側小腸瘻への持続注入カテーテルの固定に関する現状報告

長谷川真里・山口 実里・前田恵美子  
小杉 純子・倉八 朋宏\*・仲谷 健吾\*  
平山 裕\*・飯沼 泰史\*

新潟市民病院総合周産期母子医療センター  
新生児内科 看護部  
同 小児外科\*

26 週、体重 400g 台で出生、多発小腸閉鎖で日齢 4 に完全分離式ストーマ造設術を受けた児。口側小腸瘻は、既存のパウチでは対応困難であったが、皮膚保護材にビニール袋を組み合わせることで個別対応が可能となった。また、肛門側小腸瘻には経腸栄養カテーテルを用いて持続注入を開

始したが、その固定法や注入法に苦慮していた。皮膚保護材を成形し使用したことで固定性が向上し、カテーテルトラブルが減少した。

#### 3 A 病院における多職種との連携ですすめるグリーンケア外来の実践報告

藤田沙緒里・森山 幸枝・三留 節子

新潟大学医歯学総合病院

子どもを亡くした母親やそのご家族は様々なグリーフの症状を経験し、抑うつや不安も出現することが多い。A 病院では 2008 年 8 月に「グリーンケア外来」を開設し、退院後のフォローアップとして、医師や看護師が母親やご家族と亡くなった子どものことを語りあう場を設けている。今回、グリーンケア外来における実践内容や今後の課題について検討したので報告する。

#### 4 グリーンケア外来における助産師のおもい—妊娠前からの関わりをとおして—

森山 幸枝・藤田沙緒里・清水 歩美  
高橋 南・三留 節子・石田真由美\*

新潟大学医歯学総合病院  
新潟大学医学部保健学科\*

A 病院におけるグリーンケア外来を担当した助産師に対する支援・教育のあり方や、外来の質向上にどのような事が必要か検討することを研究目的とした。その結果、外来担当助産師はさまざまな思いを抱いて葛藤していることが明らかになった。担当助産師としての知識や技術の習得支援、不安・悩み等を軽減するために、担当助産師のおもいを共有できる機会を組織的につくり、外来の質向上につなげていくことが必要であると考えられる。